

## 第42回 揮発性有機化合物回収装置の製造・販売

～株式会社モリカワ



ビジネスの「スキマ」を埋める業態を紹介するシリーズ連載。  
 今回は、揮発性有機化合物回収装置の開発・製造・販売を手掛ける会社を紹介。工場内や大気中に排出される有害な溶剤ガスを回収・再利用する独自のノウハウが評価されている。

### 【環境意識の向上につれ需要増】

民間企業や自治体の環境意識は日々高まっている。製造業では、カメラやスマートフォン、自動車部品の製造工程で細かな汚染が各装置内に堆積するため、品質不良を引き起こさないよう精密洗浄が必要となる。その際に使用する溶剤から発生する気体を捕集し再利用する装置を開発・販売し市場トップを維持しているのが株式会社モリカワ（東京都豊島区）だ。

### 【溶剤ガスの回収・再利用に特化】

モリカワ社が30年前から手掛けているのは、溶剤ガス回収装置「REARTH<sup>®</sup>」だ。同製品は、人体や環境に悪影響を及ぼすとされる揮発性有機化合物を捕集、冷却することで溶剤の再利用を可能としている。

同社製品は回収した気体を圧縮して冷やす機能を有しているが「この機能は国内外の同業他社ではほぼ採用していない。海外からの問い合わせもある」と、森川社長はその独自性について話す。

同社の強みは、機器の冷凍圧縮技術で国内特許を取得・保持して

いるだけでなく、洗浄時に発生する気体を効率良く捕集する独自のノウハウを確立した点にある。「精密洗浄で取扱う溶剤の成分により発生する気体の回収方法は異なります。当社は装置設置時には現場に立ち会い、現場で働く社員の作業の効率を落とさずに洗浄時に発生する気体を効率良く捕集する体制を整えることができます」と同社長は語る。溶剤ガスの回収・再利用の用途は多岐に亘るが、精密洗浄は国内市場が5億円未満と限られている。同社はこの市場をほぼ独占し、海外への需要を拡大している。

### 【冷凍用バルブの知見を活かす】

同社の溶剤ガス回収装置のノウハウは、創業時より始めた冷凍用バルブ事業の知見を活かしている。創業直後から手掛けているのは、食品倉庫や遠洋漁船などの大型冷凍設備に欠かせない冷媒用バルブだ。内陸地域で新鮮な魚介類を食べるには、同社の冷却技術が欠かせない。この市場は、家庭用冷蔵庫からスーパー・コンビニエンスストアのショーケースなど用途は

株式会社モリカワ  
 住所：東京都豊島区  
 代表：森川 毅  
 設立：1961年6月  
 売上高：非公表  
 事業内容：冷凍空調と回収装置の製造・販売  
 機器用バルブガス  
 有機溶剤の回収・販売



多岐に亘るが、大型冷凍に際しては毒な気体を含む冷媒を漏出させてはならない技術が必要だ。同社はこれを長年保持し、大型冷凍市場のシェア70%を獲得、維持している。環境事業部門の売上はバルブ事業部門と比べて約5割だが、環境事業の需要拡大に伴い、逆転する可能性もあるという。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一時的な停滞は強いられるものの、企業の環境意識の高まりは日々増しており、同社の商機もまた一層の拡大が見込まれる。

(本誌編集部)